

## 院内感染対策サーベイランス手術部位感染（SSI）部門

### 手術部位感染 判定基準

#### 表層切開創

##### 定義

表層切開創 SSIは、以下のA)B)C)3つの基準を全て満たさなければならない。

- A) 感染が、手術後 30日以内に起こる。
- B) 切開創の皮膚と皮下組織のみに及んでいる。
- C) 以下の少なくとも 1つにあてはまる：
  - a. 表層切開創から膿性排液がある。
  - b. 表層切開創から無菌的に採取した液体または組織から病原体が分離される。
  - c. 表層切開創が手術医によって意図的に開放され、かつ培養陽性または培養されていない。なおかつ、以下の感染の徴候や症状の少なくとも 1つに該当する。  
：疼痛、圧痛、限局性腫脹、発赤、熱感。  
培養陰性の場合はこの基準を満たさない。
  - d. 手術医または主治医による表層切開創 SSI の診断。

#### 深部切開創

##### 定義

深部切開創 SSIは、以下のA)B)C)3つ基準を全て満たさなければならない。

- A) 埋入物を置いていない場合は術後30日以内に、埋入物をおいた場合は術後1年以内に感染が発生し、感染が手術手技に関連していると思われる。
- B) 感染が切開創の深部軟部組織（筋膜と筋層）に及んでいる。
- C) 以下の少なくとも 1つにあてはまる：
  - a. 手術部位の臓器 /体腔部分からではなく、深部切開創から排膿がある。
  - b. 深部切開創が自然に離開した場合、あるいは手術医によって意図的に開放されかつ切開創の培養が陽性、または培養がされてない。なおかつ、以下の感染の徴候や症状のうち少なくとも一つに該当する。  
：発熱（ $>38^{\circ}\text{C}$ ）、限局した疼痛もしくは圧痛。  
培養陰性の場合はこの基準を満たさない。
  - c. 深部切開創に及ぶ膿瘍または他の感染の証拠が、直接的検索、再手術中、組織病理学的、放射線学的検査によって発見される。
  - d. 手術医または主治医による深部切開創 SSI の診断。

## 臓器/体腔

### 定義

臓器/体腔 SSI は、手術手技中に開放されあるいは操作された、皮膚切開創・筋膜・筋層を除く身体のどの部分にも及ぶ。特定部位は、感染部位をさらに識別するために臓器/体腔に割り当てられる。

臓器/体腔SSI は、以下のA)B)C)3つの基準を全て満たさなければならない。

A) 埋入物を置いていない場合は術後30日以内に、埋入物をおいた場合は術後1年以内に感染が発生し、感染が手術手技に関連していると思われる。

B) 感染は、手術手技中に開放されあるいは操作された身体のいずれかの部分に及ぶ。  
(切開創、筋膜または筋層を除く)

C) 以下の少なくとも1つにあてはまる：

- a. 刺創を通じて臓器/体腔に留置されているドレーンから膿性排液がある。
- b. 臓器/体腔から無菌的に採取した液体または組織検体から病原体が分離される。
- c. 臓器/体腔に及ぶ膿瘍または他の感染の証拠が、直接的検索、再手術中、組織病理学的、放射線学的検査によって発見される。
- d. 手術医または主治医による臓器/体腔SSI の診断。